

人生は「あわてながら楽しむ」 出会いが最大の財産



Profile
舘野文誉 氏
(91E)

ヤナセバイエルンモーターズ株式会社
名古屋支店 セールスマネージャー

輸入自動車販売業界の雄「ヤナセ」にこの人あり。日本全国に数あるヤナセのディーラー網の中で、名古屋にいながら7年連続全国1位の販売実績を誇る舘野文誉さん。その活躍ぶりは全国ネットのTV番組や経済雑誌、地元TV局など各メディアに取り上げられています。舘野さんにその素顔を語っていただきました。

私は名古屋学院大学在学中、ゴルフ部に所属していました。20歳の時に「プロゴルファーを目指そう」と決意し、大学卒業後は就職せずに中島常幸プロの門下生となりました。30歳までチャレンジしようと考え、中島プロのところまで300万円を軍資金に単身オーストラリアへ渡航。3年頑張りましたが、結果が出なかったのと資金が底をついたため帰国しました。

30歳まで決めたプロゴルファーへの挑戦が終わり、次のステージ「就職先」を探す訳ですが、ずっと勝負の世界に身を置いていたので「どんな職業に就くにせよ、勝ち負けがはっきりする仕事がいい。」と思いきや、

にお世話になった次第です。自分が頑張ったら結果が出る、数字がしっかりと出るところにいたかったんですね。ヤナセに入社して11年になりますが、BMWの販売担当になってからは7年連続でヤナセの全セールスマンの中で1位の販売実績をキープしています。「名古屋に東京の人間に負けない奴がいる。」と話題になり、マスコミにもいろいろ取り上げていただきましたが、名古屋に場所はあまり関係ないと思っています。もちろん、名古屋発信で全国で一番を獲るといふことに意味はありますが、名古屋学院大学の代表としてという気概もどこかにあるかもしれませんね。

名古屋学院大学の卒業生の中には、自分で会社を立ち上げた起業家や、会社の後継者として経営に携わる人も多く、ビジネス面で非常に頑張っている方々がたくさんいらっしゃいます。また同窓生としての仲間意識が強く、横のつながりも広がりました。刺激を受けることが多々あるし、いろんな意味で良い大学を卒業したと思います。



私の座右の銘は「不動心」。一度やると決めたら、求める結果に向けて心を動かさず邁進する。この精神が全ての原動力となっています。今の仕事の肩書きはセールスマネージャーで、販売をしながら若手の育成も求められています。そろそろ販売の第一線から身を引いて、マネージメント面を管轄する年齢になったのかもしれませんが、私は現場が好きなので「ブルーイングマネージャー」として新しいスタイルを確立

すべくチャレンジしていこうと考えています。唯一無二の立ち位置を目指し、不動心で立ち向かう…。

人生の時間は無限にあるようで、実に限られています。例えばあと10年あるではなく、もう10年しかないと思わないと、人生の楽しみを満喫できないのではないのでしょうか。私はいつも「あわてながら楽しむ」という考えで行動しています。そして人生にとっての財産は人とのつながりにつくると思っています。出会った人によって、人生を変えることができるのですから。



Profile
高橋重憲 氏
(97E)

中京テレビ放送株式会社
編成局アナウンス部 主事

在名テレビ局の中京テレビ放送株式会社に名古屋学院大学卒業生のアナウンサーがいることをご存知ですか。月々金のお昼11時30分から「ストレイトニュース」、同じく月々金の夕方4時49分から「News@5:55」に出演中の編成局アナウンス部主事、高橋重憲さんです。アナウンサーを目指しての活動などを伺いました。

私が将来就きたい職業としてアナウンサーを意識したのは小学5年生の頃です。アナウンサーになるための就職活動の準備をはじめたのが大学3年生の夏あたり。今から15年程前で、当時としてはかなり早い行動でしたね。それまで特に何の勉強もしていなかったのですが、アナウンサーの基礎を学ぶアナウンス学校に通いはじめたのがその時の秋。マスコミ志望の学生が名古屋のほぼ全ての大学から集まっています、すごく刺激を受けたことを覚えています。そして年が明けて1月から東京キー局の試験がはじまり、以降に大阪、名古屋から地方局までほぼ1年にわたって各局で採用試験が行われる訳です。しかし、アナウンサーの採用枠は基本的に1名、キー局以外は毎年採用試験があるものではないので

大学時代の一番の思い出は就職活動

す。東京のあるキー局の試験では、数千人の出願者から選ばれた50名ほどの枠に残り、自分なりに手ごたえを感じ、この年は30局ほど試験を受けましたが、残念ながらどこからも採用されることはなく4年生を終えました。

マスコミ関係は新卒者扱いが基本ですから、やむなく留年という形をとりました。今では就職活動に対する理解や支援策が多く、休学などいろいろな方策も考えられますが、当時は何の支援もなく本当に無念だったことが思い出されます。そして、満を辞しての就職活動2年目。前回と同じ轍を踏んではいけないと思



い、東京のアナウンス学校へも通いました。ここではレベルも意識もかなり高いアナウンサー志願者が集まり、お互いに刺激し合い、文字通り切磋琢磨したものです。そして、その年の採用試験。キー局から前年と同じように受けていく訳です。結果

は鹿児島と山梨の局から採用通知をいただきました。私の希望は東京キー局が在名テレビ局でしたから残念でしたが、どこにいてもアナウンサーの仕事は変わらないと考え、鹿児島局の南日本放送に入社しました。テレビとラジオを擁する伝統あるテレビ局で、報道が強く、とにかく上下関係の厳しい会社でしたね。しゃべりのイロハ一つとっても妥協はなく、社会人としての立ち居振る舞いなども本当に厳しかった。そんな厳しい環境の中で鍛えられる毎日でしたが、人の縁というものはわからないもので、入社3年目を迎える間に今の会社、中京テレビのアナウンサー中途採用の話が舞い込んで来りました。中京テレビの試験を受けて、地元名古屋に戻って来ることになりました。南日本放送は3年2ヶ月在籍、中京テレビには来年度まる10年在籍となります。今思い返せば、南日本放送時代にアナウンサーとして、社会人としての基礎を身につけさせてもらいました。「鹿児島が私を育ててくれた。」と、心から感謝しています。

最後に、大学時代の西村ゼミ生として西村先生には、二方ならずお世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。